

【提案】 エンドユーザIPアドレス割り振り・割り当てサイズの明確化

廣海 緑里, 藤崎 智宏

提案内容

*** エンドユーザに割り当てた
IPアドレスのサイズがわか
る仕組みを導入する**

*** whoisの利用（拡張を含む）や逆引きの登録の
利用で運用可能かを含めて、手法の検討や実
装やポリシーの変更を、レジストリである
JPNICに依頼したい**

問題点と解決したい点

* Case of IPv4

* IPv4の割り当て登録

原則、 $\leq /30$ の登録

* IPv4インフラ登録

インフラの範囲

* Case of IPv6

* IPv6の割り当て登録

原則 $\leq /48$ の登録

* IPv6インフラ登録

インフラの範囲

* DB登録 \neq ネットワークの実運用単位

* フィルタは、実際のユーザの利用範囲でかけたい

本提案のメリット・デメリット

* メリット

1. エンド組織の割り当て範囲がわかる

- * Abuse等の対策としてエンド組織単位でのフィルタが可能になる
- * プロバイダでは、全てのアドレスをブロックされる懸念が減る

2. 統計の精度があがる

- * IPv6アドレスの割り当て数から、IPv6の普及状況の指針とできる

* デメリット

1. 指定事業者の登録作業に影響する

- * 登録作業の手間を最小限にする手法の検討と導入が必要

補足情報

* IETF91の動向から

- * homenet wg では、家のアドレス領域の逆引き登録提案等があがっている
- * 将来、標準化された場合の関連の考慮が必要になる可能性あり

おしまい

*** ご清聴ありがとうございました。**